

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

公表日： 2026年03月16日

事業所名： 児童発達支援 フォレストキッズ稲毛海岸教室

対象人数 (保護者) 46人 回答者数 34人 回収 73.9%

	チェック項目	回答				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	32	2				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	33	1			言葉が遅れているが専門の先生が多くことが少ないと感じる	昨年末、常勤の言語聴覚士が体調不良で退職したため、非常勤の言語聴覚士が一人で専門的支援を行っています。言葉の支援を求めるお子様が多くいらっしゃるため、月に1回は支援に入るようにしています。ただし、他の職員も言語聴覚士から研修を受けて支援しているため、言葉の支援について遅滞するようなことはありませんので、その点をご安心して頂いて良いかと思えます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	22	10	1	1	入り口が階段しかないで、少し不便に感じます トイレの出入り口周りが狭く入り組んでいるため、利用しにくいと感じます。	賃貸物件のため、階段等の造作については対策が取れません。ただし、バギーなどの昇降のお手伝いを職員が対応しています。トイレの入り口が狭いですが、これも造作なので改善は出来ませんが、トイレまでの通路は広さを確保しています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	34					
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	29	5			担当の先生によると正直感じる。先生によってはフィードバックがなかったり子どもの様子をあまり気にしていないように見える。最近の様子や気になることがあるかと確認されると、まだ話しても大丈夫なんだなと思い、話すことができます。	フィードバックは必ず行うように職員に徹底しました。保護者様のお話も何うように会議で連携しました。
	6 事業所が公表している支援プログラム(※2)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	31	2		1	上記同様先生によると感じる。あまり子どもの表情を確認しないで進める先生もたまにいます。	支援プログラムについては、職員全員で共有しています。支援に際しては、お子さまとしっかり向き合うように話し合いました。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。	33	1			先生によっては保護者から聞いた不安要素などを盛り込んでくれたり工夫してくれたり、とても嬉しかったです。	ありがとうございます。全体発達を支援の柱としており、保護者さまからお伝え頂いたお話を支援に活かせるようにしています。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	30	2		2		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	32	2			担当の先生による。一時期、他に移った方がいいか悩みました。	支援や利用について、ご相談を受け付けております。御心配などありましたら、お気軽に職員にお声掛け頂ければと思います。
	10 事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	30	3		1	子どもの興味あるものを取り入れてくれたのをみて、新しいことでも不安がらず、取り組んでいる姿を見て嬉しく思ったことがあります。	全体発達支援の観点から、お子さまの発達状態を拝見しながらオーダーメイドのプログラムを提供させて頂いております。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6	4	14	10		
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	33			1		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	32	1	1			
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	6	9	13		
保護	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	32	1	1		前記述にもあるように先生によってはフィードバックすらないときがあるので、フィードバックする人、しない人の担当があるのかな? と思い、知りたいです。	フィードバックは全員が行うようになっています。再度、全職員に徹底しておきます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	29	3	1	1		

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	32	2			担当の先生による	職員と支援について情報を共有し、適切な支援ができるようにしていきます。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	2	16	15			
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	26	3			5	先生に伝えたことが、翌週違う先生に伝わっていて話をしてくれた。	今後も、きめ細かい対応ができるように努力していきたいと思います。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	31	3					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	20	3	2	9			
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	30	2			2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17	2		15			
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	4	1	21		避難訓練は定期的に行っています。避難計画に基づいた案内を見学室に掲示しています。	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	27	2		5			
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	1		14	毎回見てるのでわかりません	契約時にお話しています。また、見学室に避難経路を表示しています。	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	34						
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	32	2					
	29	事業所の支援に満足していますか。	30	3		1	先生によって差はあるものの、親は支援については素人なのでしばらく様子を見てさすがに口を出していいかな？と思うまで話すことはないと思います。	全体発達を促し、お困りごとが減って、お友だちやご家庭で健やかに生活できるように職員全体で研鑽を重ね、支援して行きたいと思っています。	

※1「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、子ども本人がこの部屋で何をすることがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3「児童発達支援計画（個別支援計画）」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通して、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせ実施されることが想定されています。

※5「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの障害の特性やその特性を踏まえた子どもへの関わり方を学ぶことにより、子どもの行動変容することを目標とします。